

# ぶらりわが街宮沢界限

## (33) 花・樹木をながめてぶらり散歩(初秋～秋) -1-

秋は、ぶらり散歩には絶好の季節。身近にある花・樹木をながめながらいかがですか。

### ○ サルスベリ(百日紅=ヒャクジツコウ=ミソハギ科の落葉高木)



諏訪・松中通り(都道第162号線)諏訪神社～朝日町交差点間の赤・白花街路樹等(写真左)

サルスベリは、花が美しく、耐病性もあり、必要以上に大きくなならないため公園や庭などに植えられています。中国南部原産で百日紅ともいう。それは夏の盛りから百日近く咲き続けることに由来すると言われていいる。和名は、サルスベリ「猿滑」-幹の肥大成長に伴って古い樹皮のコルク層がはがれ落ち、新しくすべすべした感触の樹皮が表面に現われて更新していくことによる。つまり、猿が登ろうとしても、滑ってしまうということです(\*実際には猿は滑ることなく簡単に上ってしまう)。実は円(まる)いさく果で、種子には翼がある。葉は紅葉する。諏訪・松中通りに「ハナズオウ」マメ科の落葉低木・花期4月紅紫色。今年加わりました。

て更新していくことによる。つまり、猿が登ろうとしても、滑ってしまうということです(\*実際には猿は滑ることなく簡単に上ってしまう)。実は円(まる)いさく果で、種子には翼がある。葉は紅葉する。諏訪・松中通りに「ハナズオウ」マメ科の落葉低木・花期4月紅紫色。今年加わりました。

### ○ ギンモクセイ(銀木犀) -モクセイ科の常緑広葉中高木・漢名「丹桂」・花言葉「初恋」

阿弥陀寺(宮沢町2-36-6)境内の鐘楼(しょうろう)脇の大木。(写真右)

一般的には、庭の主木や柵沿いなどに植栽されているのは、キンモクセイ(金木犀)で、9月下旬～10月初旬小花が集まって咲く澄黄色、ギンモクセイは9月初旬～中旬白色。花の強烈な芳香(ほうこう)を放つキンモクセイは香りが漂ってくると「どこかで咲いている」という感じで残暑が和らく中、秋を知らされます。ギンモクセイはやや芳香が劣り、白色で目立たず近くを通ると「あ、咲いている」という感じです。ギンモクセイの大木は余り見かけません。「木犀」=樹皮が淡灰褐色で皮目が多く自立つ、この模様が動物の犀(さい)に似ているから付いた。



\*市の木「もくせい」と市の花「つつじ」-昭和49年(1974)市制施行20周年を記念し、市民の応募により制定されました。得票数の多さに加え、多くの市民に親しまれている点が制定の理由です。「つつじ」の街路樹-モリタウン「つつじが丘通り」(写真右下)



### ○ ヒガンバナ(彼岸花)・マンジュシャゲ(曼珠沙華)・リコリス(ギリシャ神話の海の女帝)

諏訪神社(宮沢町2-35-23)境内の社殿諏訪松中通り沿い、阿弥陀寺等。(写真左)



ヒガンバナは、中国原産、開花期・9月彼岸頃に火の海、赤い花壁ともいわれ壮観な光景を見せてくれる群落美です。球根で植えられて初秋まで地表には何も生えてきません。田んぼの畦道(あぜみち)や墓地に多く見られるが、自生でなく人為的に植えられ、畦の場合はネズミ、もぐらなど、田を荒らす動物がその鱗茎(りんけい)が有毒などを嫌って避ける「忌避(きひ)」植えつけだが、モグラは肉食のためヒガンバナに無縁という見解もあるが、エサのミミズがヒガンバナを嫌って土中に住まないため、この近くにモグラが現れないと言われています。

ナに無縁という見解もあるが、エサのミミズがヒガンバナを嫌って土中に住まないため、この近くにモグラが現れないと言われています。

\*主なヒガンバナ：奈良県明日香村の飛鳥路一階段状の畔の赤い花壁、宮崎県野尻町の萩の茶屋-200万本の紅・白花は関東では珍しい。埼玉県日高町の巾着(きんちやく)田-500万本

(記)防犯宮沢支部 西山 禎一